

20170507 「信仰に夜救い」

目標：聖書における「義」と「恵」の意味を掴み、恵みによって義とされる素晴らしさを知る。

聖書箇所：ローマ3：21-26 時間：10分

暗誦聖句：「彼らは、価なしに、神の恵みにより、キリスト・イエスによるあがないによって義とされるのである。ローマ3：24」

道具：ホワイトボード、ペン

対象者：中1×1 小6×1 小4×3 小3×2 小2×1 小1×2 未就園児×1

留意点：子どもたち前回までマルコ伝を学んできた。その中で主イエスが教えてくれた福音とは何か、と言う流れで、本時以降を進めていきたい。

段階	時間	教師から	子供に予想される反応	備考
課題確認	2分	今まで、イエス様の御生涯を学んできました。そのイエス様の伝えたかったメッセージをまとめたのが以前にお話ししたパウロさんです。		今までの学びと本時のつながりを述べ、体験的に聖書と教理を理解する一助としたい。
		パウロさんは「本時の暗唱聖句（24節）」と言っています。	24節の朗読	「まとめた」と言う表現は的確ではないが、子どもたちは神学者ではないので、わかりやすさを優先していいと思う。
		意味を説明してみてください。		板書を指し、一緒に読む。
課題探究	6分	恵みとは、どういうときに使いますか。	・（応答なし）	彼ら：私たち 価なし：ただ というように挙がるだろうが、恵、義で引っかかると思う。キリスト・イエスによる贖いは、十字架の御業としていいだろう。恐らくこの問いに答えられる子どもはいないだろう。ここでは恵みとは、難しいモノだと確認できれば良い。
		「恵み」を先生も調べました。いくつかの言葉が恵みと訳されているのですが、面白い訳がありました。「ひいき」です。		どういうときに「ひいき」を使うか聞いてみたい。理由無く、その人が良い思いをすることである。通常、人はひいきされない方を意識しがちで、悪いイメージを持つようだが、この場合はされる方なので、興味深い反応があるだろう。
		私たちは、えこひいきで義とされるというのです。では、義とはどういう時に使いますか。	・（応答なし）	滅多に使わない言葉だと言うことを確認できれば良い。
		なかなか聞かないのは、神様の正しさを表す時に使うからです。		義＝神様のただしさと定義づけする。
		義しい人は、神様の御前に恥ずかしい気持ちや申し訳ないという気持ちを持たずに立てると言うことです。みなさんは立てますか？	・立てる ・立てない	立てると言う子どもは、まだ信仰告白には遠いと言うことになるのだろう。いろいろ話させて見たら良いと思う。
		義しさと言うことで、考えさせられた出来事がありました。		例) 友人の、お腹を下していたので速度違反をして捕まったのだが、許してもらいすぐに洗面所に行った話をする。
		私たちは正しいことと言うと絶対善し悪しが動かないと考えがちです。でも案外そうではありません。神様は、イエス様を受け入れた人の罪を赦す、そういうただしさを私たちに与えられました。		違反は駄目だが、その人の事情を見て、罰の一線が変わったのである。神の義しさの一線は、私たちにひいきされているのである。それはイエス様を救い主と信じたからである。
まとめ	2分	皆さん是非イエス様を救い主と信じて、神様の前にしっかり立てる人になって下さい。		189号のテーマ「神の恵みに生かされる」からの反映。
		暗誦聖句		